

# 放課後等デイサービス 夢門塾 自己評価表

○本評価表は、放課後等デイサービスに従事する従業員の方に、事業所の自己評価していただくものです。  
 「はい」又は「いいえ」のどちらかに○を記入するとともに、従業員の視点で、「事業所が工夫していると思う点」や「改善が必要だと思われる点」などについて記入してください。

事業所名	夢門塾うゆう御幸	公表日	2026年 1月
------	----------	-----	----------

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	0	・学習と運動の部屋を分けて使用している。 ・部屋が分かれているのでクールダウンしやすい。	・学習者が多く狭く集中しにくい状況があるため人数配置や学習環境の見直しが必要である。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4	2	・複数人で遊べるように声かけを行い職員が各部屋に分かれるようにしている。 ・急な休みなどは他事業所から応援に来てもらっている。	・職員配置の状況により十分な個別対応が難しい場合があるため配置体制の見直しや工夫が必要である。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	0	・空間ごとに学習ルームなど目的を持たせ構造化している。 ・POPなどを活用している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6	0	・日々の清掃や整理整頓を行い、安心して過ごせる環境づくりに努めている。 ・活動内容に応じて机や遊具の配置を変えるなどして落ち着いて取り組めるように工夫している。	・細部の清掃や整理整頓を心がける必要がある。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	0	・トラブルの時やクールダウンなどTPOに応じて子供たちが使えている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6	0	・職員間で振り返りや案を出し合っている。 ・毎日申し送りノートを使い職員に周知している。	・必要に応じてマニュアル化していく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0	・保護者評価の結果を職員間で共有し、意見や要望を具体的な支援や業務改善に反映出来るように工夫している。 ・保護者様のニーズを取り入れながら活動を考えている。	・活動がマンネリ化しないように支援の情報収集をしていく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0	・毎朝の申し送り時に気づきや意見交換など出来る場を設けて改善につなげている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	6	・現在行ってないが、第三者や訪問者などにいただいた指摘やアドバイスを受けた場合は改善に努めている。	・第三者外部評価の機会を設ける必要がある。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6	0	・全体研修や勤続年数に応じた研修を行っている。 ・個人でも研修に参加している。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6	0	・こどもの特性やニーズを踏まえて支援プログラム作成し、分かりやすく説明できるように工夫している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6	0	・子どもへの職員の気づきや意見を収集し、成長や課題を見つめ直している。 ・個別支援計画やモニタリングを活用し個別性の質を高めている。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5	1	・事業所内でカンファレンスを行い情報共有や対応を行っている。	・回数を増やして支援の方向性を具体的に話しが出来るようにしていく。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5	1	・ファイルを活用したり、定期的なミーティングなどで内容を確認することで計画に沿った支援が行えるように工夫している。	・共通認識が十分に図れていない点もあるので、情報共有の方法などを見直す必要がある。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6	0	・申し送りノートを活用して気づきや変化を伝え合うようにしている。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6	0	・必要な項目を適切に設定し、具体的な支援内容が明確になるように工夫している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	0	・毎月一回全員で話し合いをしている。	・全員の活動案がすべて取り入れられていないので、翌月や季節の行事と翌年に活かされるようにしていく。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6	0	・運動、工作、季節の行事など多様性を持たせるように考えている。 ・インターネットなどで情報を取り入れられるよう工夫している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6	0	・子どもの状況に応じて使い分けるようにしている。 ・活動の中に取り入れるようにしている。	・集団活動が苦手な子どもへの支援方法を工夫し、より効果的に関わるようにしていく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	1	・活動に関しては毎日の活動担当を決めて申し送り時に打ち合わせをしている。 ・申し送りノートを活用している。	・支援内容や職員間の役割分担を明確にするために日々の業務に追われないよう業務の整理・計画を進める必要がある。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	0	・送迎後に情報や気づきを共有している。 ・翌日の申し送り時にも振り返りを行い共有している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	0	・個別に記録を用いて行っている。	
	23	定期的なモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6	0	・モニタリングの結果をもとに必要なに応じて支援内容や活動内容の見直しを行っている。	・職員間でさらに共有し計画に反映させる体制を強化する必要がある。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	6	0	・運動・生活・学習をバランスよく取り入れた支援を行っている。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定を育てるための支援を行っているか。	6	0	・本人の意思決定を優先できるように工夫している。	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6	0	・児童発達支援管理責任者が参加し、その内容を職員に共有している。	

関係機関や保護者との連携	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	2	・必要に応じて医療、福祉、教育機関と情報共有を行い連携を図っている。	・連携頻度や情報共有方法にばらつきがあり、統一が必要である。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6	0	・状況に応じて学校の先生と情報共有を行い、連携を図っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	4	2	・併設の児童発達支援事業所からの情報交換は出来ている。	・他事業所との継続的な情報共有体制の構築が課題である。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	0	6		・現在、該当する利用者がいないため、その機会は設けておりませんが、該当する機会があった際には、支援内容等について情報提供を行っている。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	0	6		・これまで連携を図ったり、研修を受ける機会がなかったため、今後は必要に応じて連携を図るとともに、研修を受ける機会を設けていく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	6	0	・他事業所（放課後等デイサービス）と連携し、合同イベントを定期的に企画・実施している。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	3	3		・これまで積極的に参加できていなかったため、今後は積極的に参加していく。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6	0	・利用時の様子（できていたこと・難しかったこと）を保護者の方と共有し、家庭での様子も確認しながら支援につなげている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6	0		・これまで十分な情報提供ができていなかったため、今後は市などから情報提供があった際には、保護者様へお伝えしていく。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6	0	・契約時に丁寧な説明を心掛けている。	
保護者への説明等	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6	0	・モニタリングや送迎時などの機会を通して、保護者様や本人の意向を確認し、支援に反映している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6	0	・保護者の方に計画案を提示し、確認・同意を得た上で、承諾のサインをいただいている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6	0	・保護者の思いを尊重し、相談を受けるとともに、その内容や助言について職員間で共有し、支援を行っている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5	1	・家族との交流を深めることを目的として、家族で参加できるイベントを企画している。	・参加しやすい仕組み作りが必要である。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6	0	・管理者を通して苦情内容を確認し、職員間で解決策を共有することで再発防止に努めている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6	0	・夢通信、夢だより、夢ブログ、コードモン等を活用し、日々の活動内容や目的について情報発信を行っている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6	0	・個人情報保護に配慮し、利用者の写真利用の可否等を一覧化し、職員間で共有している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5	1	・言葉だけではなく視覚で支援にも配慮しながら、特性に合わせた伝え方をしている。	職員間で支援方法の統一を図る必要がある。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6	0	・地域交流を目的として、法人内で実施されている行事への参加を行っている。	
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	0	・各項目について、年に数回の研修を通じて理解の確認と意識の共有を行っている。	・感染症など発生時でなければ対応が難しい場面もあるため、日頃から職員間での意識づけを行っている。
非常時等の対応	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6	0	・毎年1月および7月に、災害種別に応じた避難訓練を実施し、職員および利用者による避難経路の確認を徹底している。	・これまで避難訓練は実施してきたが、内容に変化が少なかったことから、今後は訓練方法を工夫し、より印象に残る取り組みを行っている。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6	0	・利用前(契約時など)に子どもの服薬状況やてんかん発作などの健康状態を確認している。	・利用者の中にてんかんのある方はいるが、利用中の服薬機会がないため、緊急時の対応について引き続き職員間で共有・確認を行っている。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	0	・アレルギーのある利用者が安全に過ごせるよう、クッキング活動、おやつの際には、ノートなどを用いて職員間で情報共有を行い、確認を徹底している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6	0	・安全計画を基に必要な研修や訓練を定期的に行っており、安全な環境で支援が行えるよう工夫している。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6	0	・夢だよりなどでの報告やコードモン・連絡帳で保護者様へ周知している。	・安全確保の取り組みや変更点について保護者様へ情報提供する仕組みを整える必要がある。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6	0	・再発防止を図るため、情報を適時記入・記録し、職員間での確認と共有を徹底している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6	0	・定期的な研修を実施し、職員全体で虐待防止の意識向上と実践につなげている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6	0	・定期的な研修を通して、職員全体で虐待防止についての理解と確認を行っている。	
保護者様評価、自己評価についてまとめ						
・これから子どもたちが成長していけるよう、多くの経験を積むことができる楽しい活動を取り入れ、職員一同支援の質の向上に向けて日々努めてまいります。						